



広島医療生活協同組合 広島共立病院

リハビリテーション科のご案内



広島共立病院

リハビリテーション科

私たちは、ひとりひとりが夢を持ち活動しています。
そのなかで、生活を愉しむ力・暮らしを育む力を大切にした
リハビリテーションの提供を追究しています。
あなたの夢を、私たちと一緒に実現してみませんか？

人柄のよい
優秀な医療者となり
患者様の役に立て
丸刈 昇一

【リハビリテーション科 基本方針】

リハビリテーションにおける総合機能（脳血管リハ・呼吸器リハ・運動器リハ・心臓リハ）を持つ医療機関として、急性期から回復期、そして予防を含む生活期に至るまで地域に密着した切れ目のないリハビリテーションを提供します。

- ① 地域病院・診療所・介護サービス施設等と連携し、リハビリテーションサービスを提供する
- ② 障がいを持った患者様の人権を尊重する医療を実践する
- ③ 障がいのある人が最良の心身の状態を獲得し、年齢や障がいの程度に応じ、地域に生活していく手助けを行なう

【構成人数】

- ・ 医師：2名(常勤2名)
- ・ 理学療法士：常勤26名
- ・ 作業療法士：常勤19名
- ・ 言語聴覚士：常勤6名

【施設基準】

- ・ 脳血管リハビリテーション料（I）
- ・ 廃用症候群リハビリテーション料（I）
- ・ 運動器リハビリテーション料（I）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（I）
- ・ 心大血管リハビリテーション料（I）



リハビリテーション科
入口

～リハビリテーション科の特徴～

急性期

《急性期・一般病棟でのリハビリテーション》

病気やケガにより入院治療が必要となった方に対し、医師の指示のもと他職種連携し、社会復帰に向けた早期からのリハビリテーションに取り組んでいます。栄養サポートチーム、呼吸ケアチーム、褥瘡対策チーム等にも参加しています。2014年10月からは、緩和ケア病棟でのリハビリテーションにも取り組んでいます。

回復期

《回復期病棟でのリハビリテーション》

病棟の医師・看護師・医療ソーシャルワーカー・栄養士などとチームを組み、対象となる患者様の目標を達成するために皆で取り組んでいます。個別療法以外にも、病棟スタッフと協力して起立訓練・レクリエーション活動にも取り組んでいます。

生活期

《生活期・介護事業でのリハビリテーション》

- ・ 短時間通所リハビリテーション（1時間以上2時間未満）
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士が1対1の個別訓練や自主トレーニングの指導を行います。
- ・ 訪問リハビリテーション
通院することが困難な方に対して、自宅へ訪問し心身機能の維持向上を図ります。

予防

《地域の中での活動》

- ・ 法人内ボランティア講座への参加
起居・移乗動作方法の指導等を行っています。
- ・ 地域での学習会・班会への参加
転倒予防教室等へ講師として参加しています。
- ・ お母さんのための産後講座
産後の身体・体調の変化に悩むお母さんたちを支援しています。
- ・ 失語症患者の会話そう会
2ヶ月に1回、患者・家族の会を行っています。

理学療法士

26名の理学療法士が在籍しており、心臓リハ指導士・呼吸療法認定士・糖尿病療養指導士・認定理学療法士など、様々な資格を持ったセラピストが在籍しています。経験年数も幅広く同割合程度であり、新人にとっても問題解決や日々の悩みなどを相談しやすい環境となっています。また、予防医学分野として「産後講座」も開催するなど、様々な分野の理学療法に関わっています。



作業療法士



19名の作業療法士が在籍しており、身体機能訓練だけでなく、認知症、高次脳機能障害の方の評価や訓練を行っています。日常生活動作訓練はもちろん、実際の生活場面を想定し、掃除・洗濯・調理などの家事動作訓練や作業活動も行っています。また、集団活動として1回/月の頻度でレクリエーションや陶芸活動など、対象者様の笑顔を引き出す活動を行っています。

言語聴覚士

6名の言語聴覚士が在籍し、失語症や構音障害等のコミュニケーション障害や高次脳機能障害、嚥下障害の方々の評価や訓練に関わっています。嚥下造影検査は週1回行っており、摂食嚥下障害看護認定看護師と協力しながら「口から食べること」を目指し様々な援助を行っています。また、失語症患者会「話そう会」を定期的で開催し、患者様が退院後も継続して交流出来る場を提供しています。



【勤務形態】

- ・ 4週6休制
- ・ 基本勤務時間
平日 8時30分～17時00分
土曜日 8時30分～12時30分
- 回復期病棟は、365日実施
早出・遅出体制あり
早出 7時30分～16時00分
遅出 11時00分～19時30分

【休日】

- ・ 労働組合との労使協定あり
- ・ 日曜日・国民の休日
- ・ 毎月第2・第4土曜日
- ・ 年末年始（12月29日～1月3日）
- ・ 盆休み（8月15日）

【研修・勉強会など】

院内研修

新入職員研修（法人&共立病院）
感染・リスク・救急処置・接遇等

科内研修

新人勉強会（4月：評価実技等）
患者対応でのフォロー体制導入

院外研修

職場目標より研修計画を立て参加
→伝達講習を行い情報を共有

その他

自主的なグループ勉強会
外部講師勉強会
技術練習会
回復期病棟合同学習会
PT,OT,ST 職種ごとの勉強会 etc.

【福利厚生】

- ・ 社会保険加入
（健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労災保険）
- ・ サークル活動
ソフトボール、フットサル、マラソン、
ソーシャルダンス、アロマ、軽音楽など
- ・ 院内保育施設あり
（共立ひよこ保育園・共立どんぐり保育園）

【休暇】

- ・ 年次有給休暇（初年度10日間）
- ・ 特別有給休暇
生理休暇、結婚、夏休み（5日間）、妊婦健診、
子の看護休暇、介護休暇、子ども出生時の父親、
産前産後休暇、育児休暇



【有資格】

- ・日本心臓リハビリテーション指導士：4名
- ・日本糖尿病療養指導士：2名
- ・呼吸療法認定士：5名
- ・認定理学療法士：4名
- ・臨床実習指導者講習終了者：8名
- ・終末期ケア専門士：2名
- ・訪問リハビリテーション実務者研修会終了者：2名
- ・訪問リハビリテーション管理者スキルアップ研修会終了者：2名
- ・福祉住環境コーディネーター2級：11名
- ・福祉住環境コーディネーター3級：1名
- ・心不全療養指導士：1名
- ・BLS(アメリカ心臓協会公認)コース終了者：10名
- ・生活行為向上マネジメント研修会終了者：8名
- ・がんのリハビリテーション研修修了者：1名

【研修会・学会発表】

《理学療法》

- ・当院心臓リハビリテーションの継続状況及び継続状況別死亡率・再入院率
(2017年：日本心臓リハビリテーション学会学術集会)
- ・高次脳機能障害により日常生活動作の獲得に難渋した一症例
(2017年：回復期リハビリテーション病棟協会)
- ・脳卒中下肢装具製作チャート表作成の取り組みについての紹介
(2017年：リハビリテーションケア・合同研究大会)
- ・産後分野への理学療法士の取り組み
(2018年：日本リハビリテーション医学会 学術集会)
- ・当院での卒業型通所リハビリテーションについて
～充実した在宅生活に向けた生活行為獲得への取り組み～
(2020年：広島民医連学術運動交流集会)

《作業療法》

- ・入浴動作方法の検討のタイミングについて
(2017年：回復期リハビリ病棟協会 研究大会)
- ・トイレ動作と転倒転落リスクについて
(2017年：安佐医学会)
- ・排泄動作獲得に向けた取り組み
(2019年：回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会)

《言語聴覚療法》

- ・胃瘻造設後3食経口摂取可能となった症例 (2017年：広島県言語聴覚士会学術集会)
- ・全般的知的機能低下を認め、摂食場面での工夫が必要であった一例 (2017年：安佐医学会)
- ・当院での外来嚥下造影検査の取り組み (2019年：安佐医学会)
- ・回復期リハビリテーション病棟にて経管栄養を使用していた患者の経過について
(2019年：安佐医学会)

【リハビリテーション室案内】

【理学療法室】



開放感のある
明るい空間



【作業療法室】



上手く切れた！



【言語聴覚室】



個室で集中
できる！



【物理療法室】



【水治療法室】



【スタッフルーム】

